

# 食肉海外事業説明会資料

取締役常務執行役員  
食肉事業本部長

若木 孝優

食肉事業本部 食肉生産本部  
海外業務部長

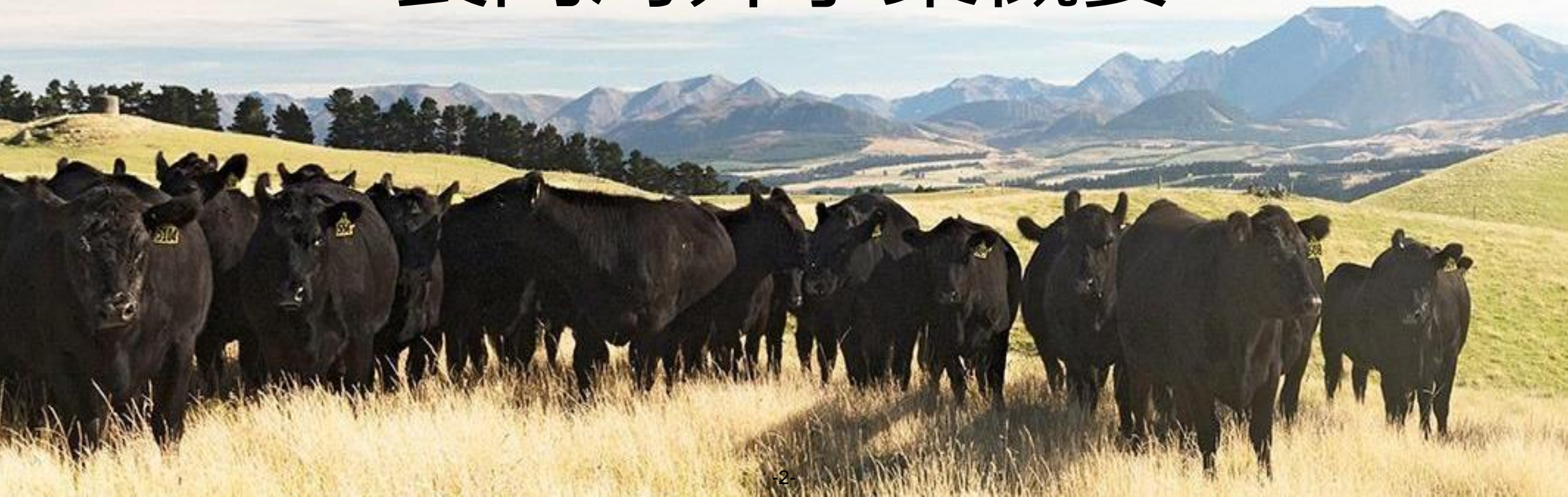
吉井 夏樹

2022年9月9日

---

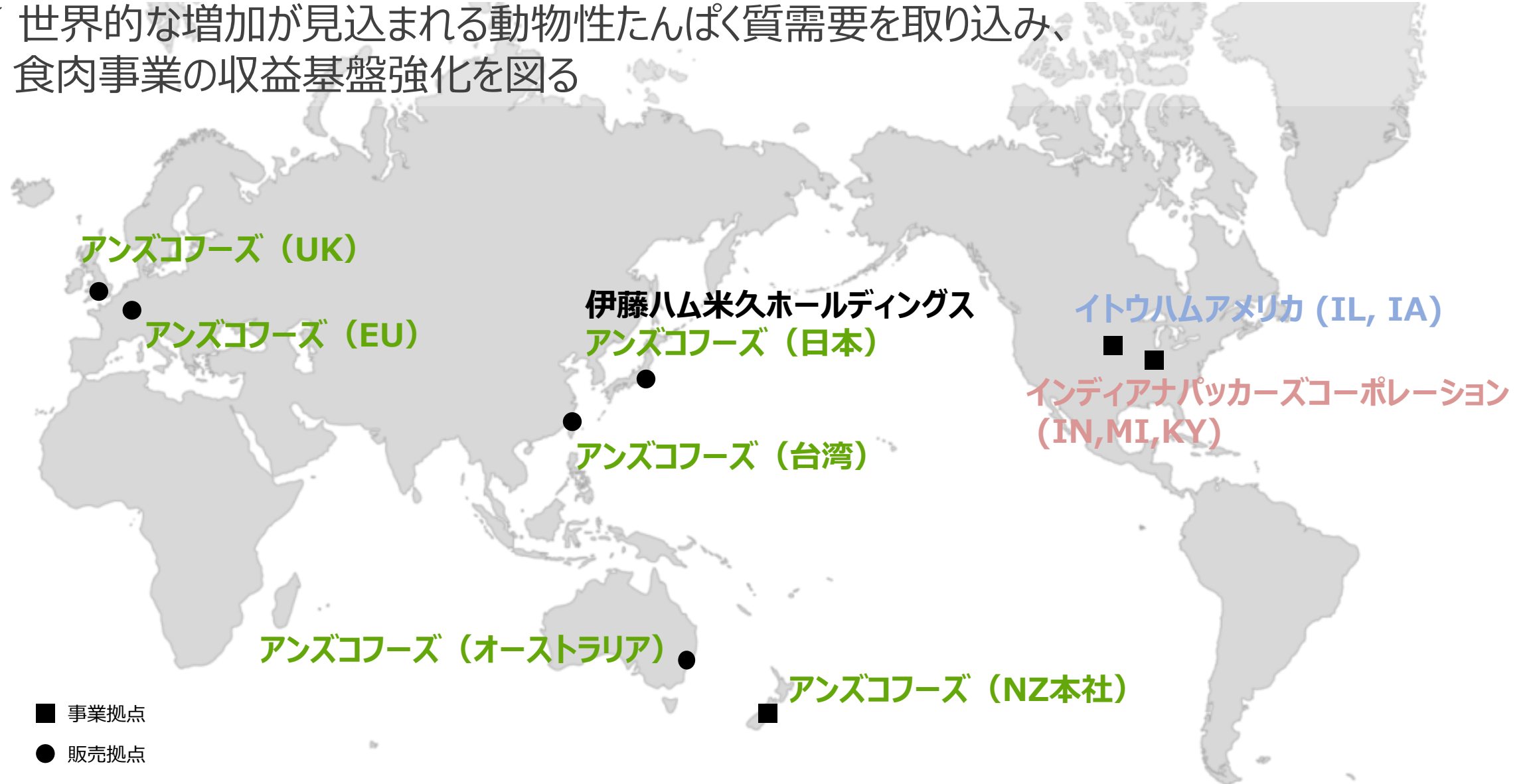
- 食肉海外事業概要
  
- アンズコフーズ事業概要
  - ・ ニュージーランドの食肉産業の特徴
  - ・ アンズコフーズの特徴と取り組み
  
- 参考資料

# 食肉海外事業概要



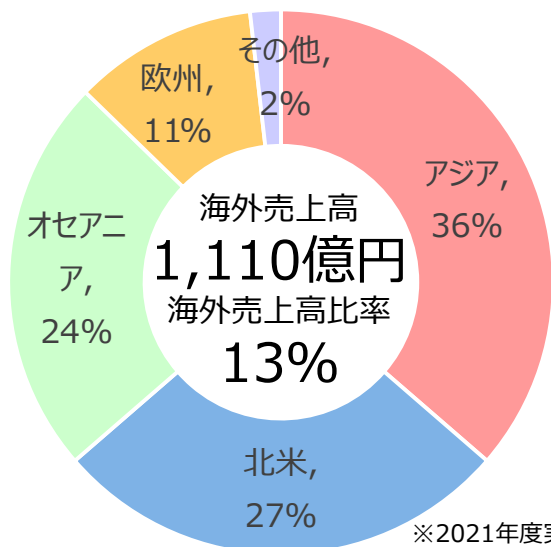
# 食肉海外事業概要 - 位置付けと拠点分布

- ✓ 世界的な増加が見込まれる動物性たんぱく質需要を取り込み、食肉事業の収益基盤強化を図る



# 食肉海外事業概要 – 食肉海外子会社/関連会社

✓ 海外売上高は、伊藤ハム米久HD全体の13%を占め、アンズコフーズを軸に全世界に展開



## アンズコフーズ



### 事業内容

- ✓ 牛肉・羊肉の処理製造・販売
- ✓ 牛肉・羊肉加工品の製造・販売

### 出資

- ✓ 伊藤ハム(株) 100%

詳細は、P.20以降参照

## イトウハムアメリカ

### 事業内容

- ✓ 豚肉の輸出販売
- ✓ 和牛の輸入販売

### 出資

- ✓ 伊藤ハム(株) 100%

米国の各豚肉パッカーから伊藤ハム米久HDへの豚肉輸出を仲介  
加えて、北米での伊藤和牛販売、NWIPで製造したシーズンド  
ポークの日本向け輸出を行う

\*NWIP：イトウハムアメリカが有するシーズンドポーク製造加工場

## インディアナパッカーズコーポレーション (IPC)



### 事業内容

- ✓ 豚肉の処理製造・販売
- ✓ 豚肉加工品の製造・販売

### 出資

- ✓ 三菱商事(株) 70%
- ✓ 北米三菱商事会社 10%
- ✓ 伊藤ハム(株) 20%

米国内外向けの豚肉、豚肉加工品を製造  
加工品は全米の小売および外食に供給  
伊藤ハム米久HDはIPCから安定的に豚肉を購入、  
日本国内で販売を行っている



- ✓ アンズコの規模拡大、副産物活用など付加価値化推進
- ✓ アンズコと連携した海外市場への販売拡大  
(NZ産牛肉・羊肉+国産和牛の販売)
- ✓ M&Aの継続検討  
(食肉パッカーへの資本参画など)
- ✓ 海外人材の育成強化

アンズコフーズ事業概要  
ニュージーランド食肉産業の特徴

**ANZCO**  
FOODS



## NZ食肉産業の特徴 – プロファイル

- ✓ NZにおいて食肉は総輸出金額の14%を占める主幹産業
- ✓ 牛肉の80%、羊肉の92%を輸出（輸出依存が高い）



NZの牛肉・ラム肉の輸出金額

80億NZ\$

為替レート：¥85.5/NZ\$（2022年9月5日時点）



NZ総輸出金額に占める牛肉・羊肉の割合

14%



NZの牛肉生産に占める輸出割合

80%



世界におけるNZの牛肉輸出シェア

6%



NZの羊肉生産に占める輸出割合

92%



世界におけるNZの羊肉輸出シェア

36%



## NZ食肉産業の特徴 - 牛・羊の種類

- ✓ NZでは、牛飼養頭数の内、約60%が乳用種（主に酪農）、約40%が肉用種
- ✓ NZでは、羊飼養頭数の大半が毛肉兼用種

乳用種



肉用種



毛肉兼用種



毛用種



肉用種



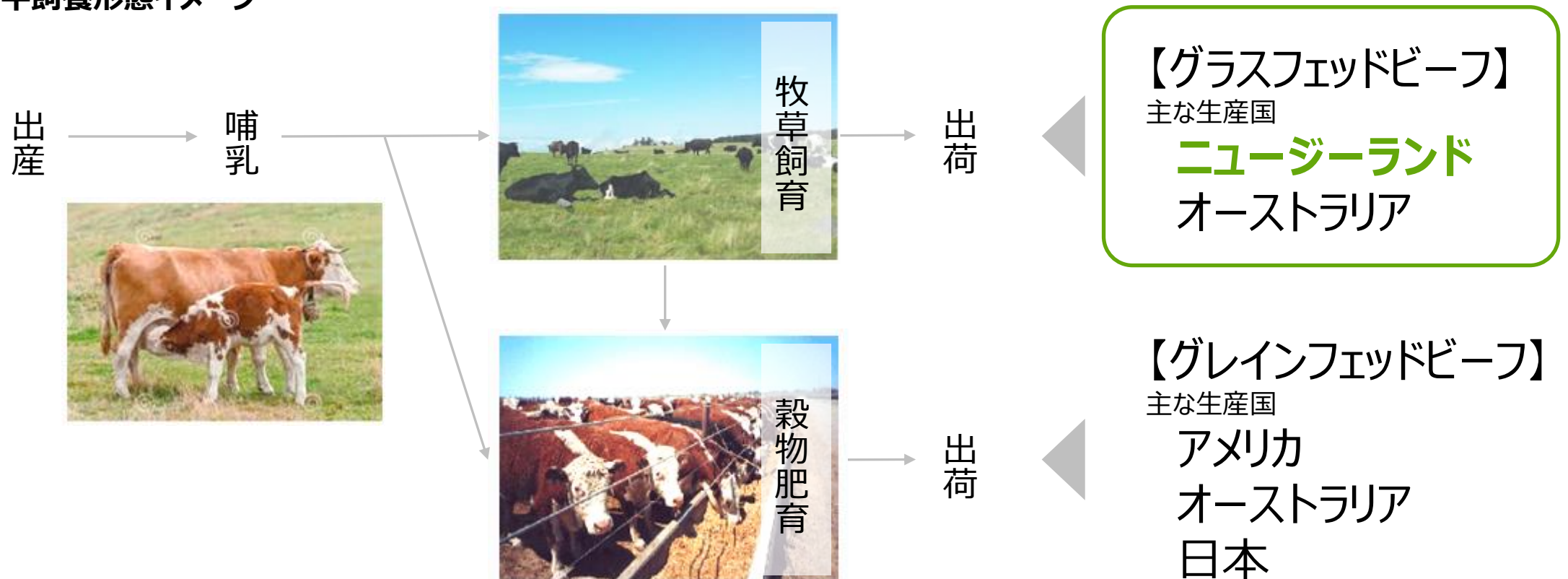
家畜飼養頭数

- 肉牛 : 388万頭
- 乳牛 : 620万頭
- 羊 : 2,600万頭

## NZ食肉産業の特徴 - 牛・羊の飼養形態

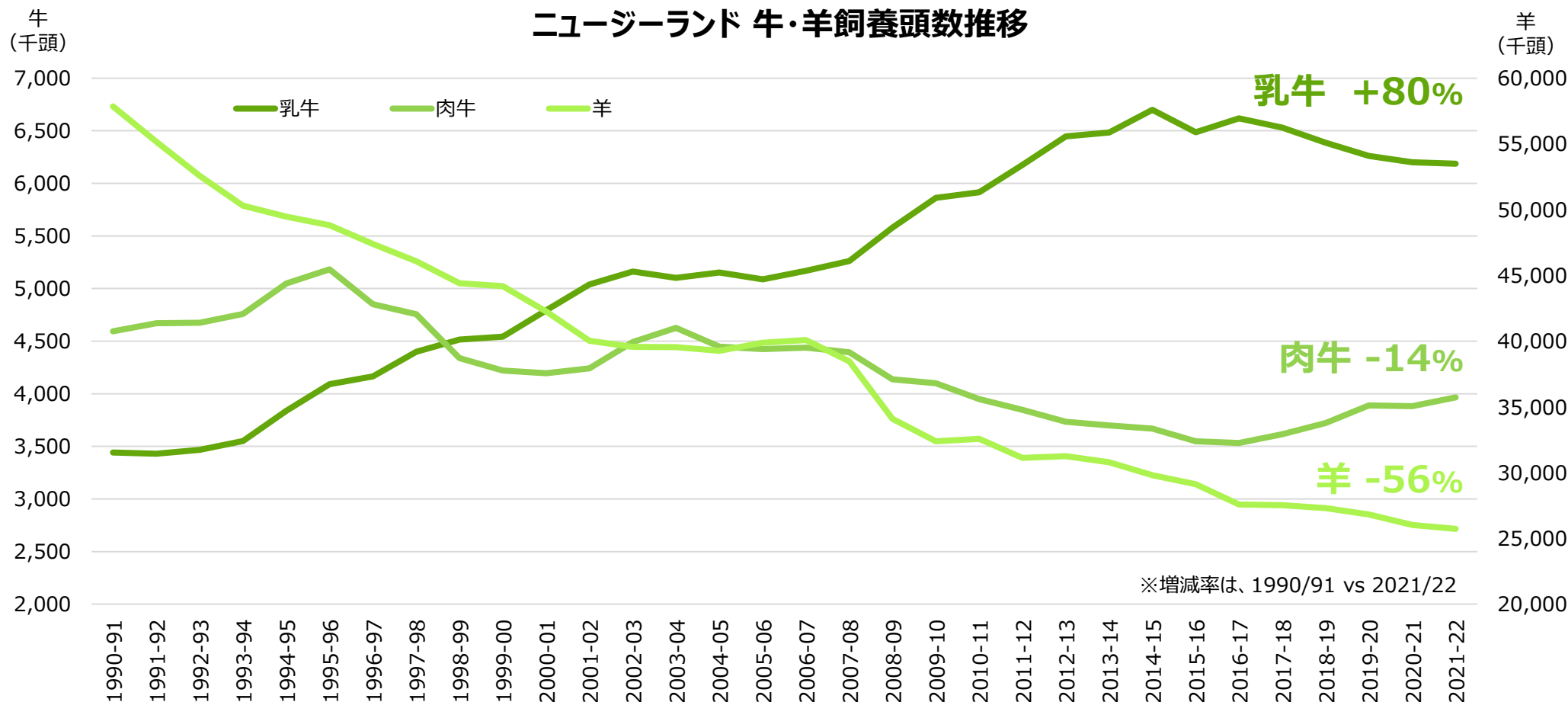
- ✓ NZでは、牛（酪農含む）・羊の飼育は放牧 = グラス・フェッド
- ✓ NZ国土全体の約40%を占める農地を有効活用し、省力化と低コスト生産を行う
- ✓ 牧草の有効活用のため、肉用牛と羊は複合経営を行う農家が多い

### 牛飼養形態イメージ



# NZ食肉産業の特徴 - 牛・羊飼養頭数推移

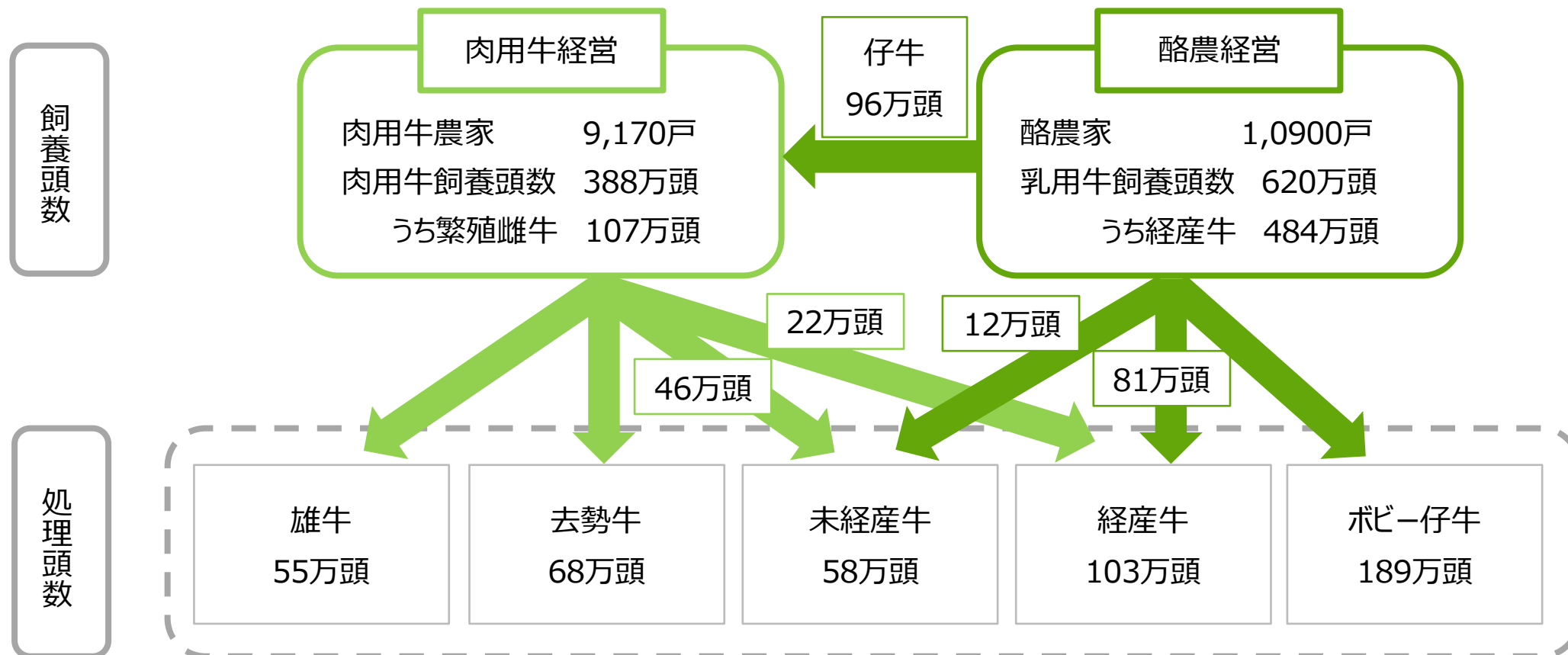
- ✓ 乳製品価格、牛肉価格、羊肉価格などの状況に応じ、土地活用を使い分け
- ✓ 乳製品価格の上昇や国策（酪農推進）により、長期トレンドでは乳牛が大きく増加



出典：Beef+Lamb New Zealand (BLNZ)

# NZ食肉産業の特徴 – 飼養頭数と処理頭数

- ✓ 年間処理頭数 牛：280万頭 羊：2,200万頭 ※処理頭数に仔牛は含まず
- ✓ 牛の生産頭数は、酪農と密接な関係がある

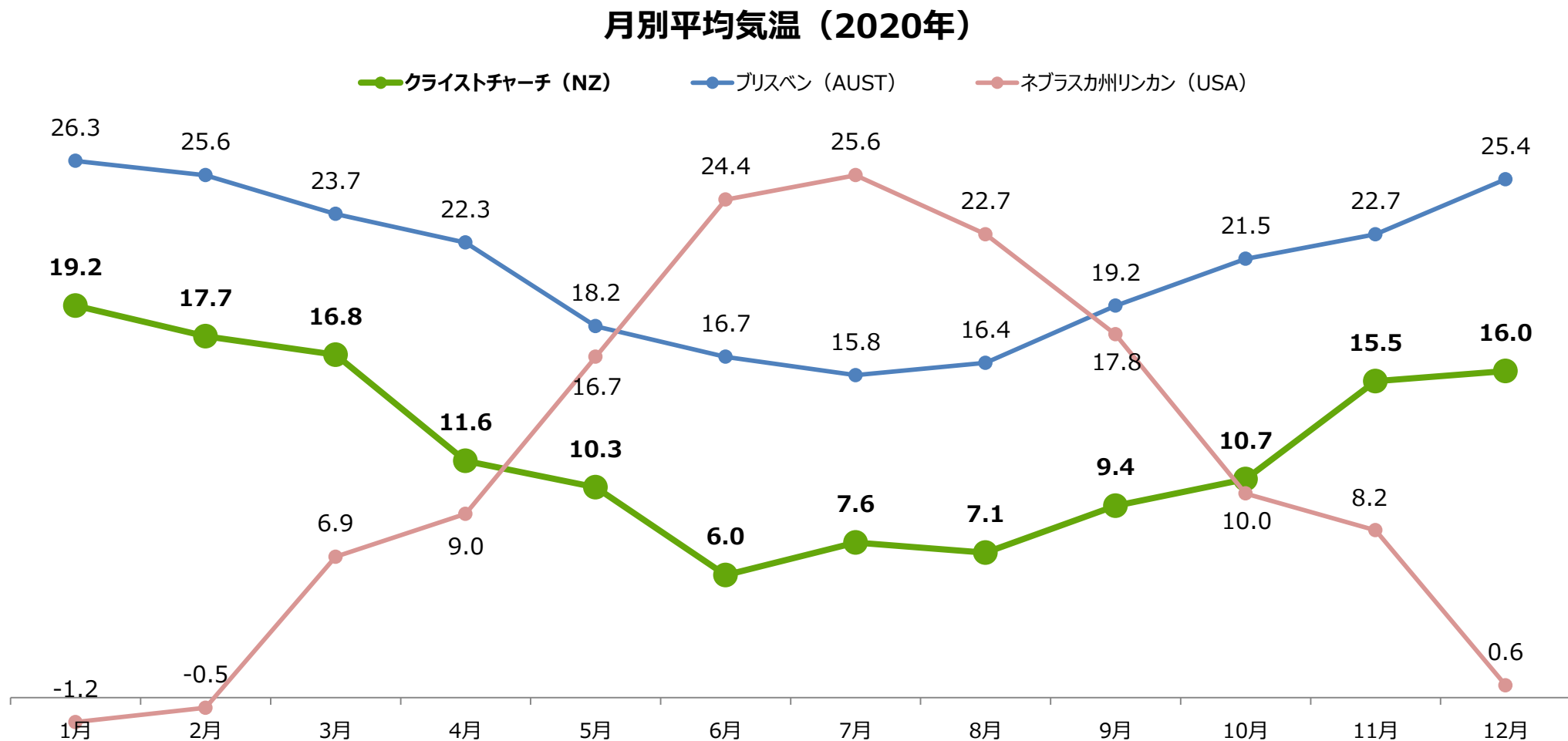


※農家数および飼養頭数は2020年、処理頭数は2020/21年度

出典：Beef+Lamb New Zealand (BLNZ)

# NZ食肉産業の特徴 - 気候（気温）

✓ NZは年間を通じて冷涼な気温で、家畜への暑さによるストレスが少ない



出典：気象庁

## NZ食肉産業の特徴 – 気候（降水量）

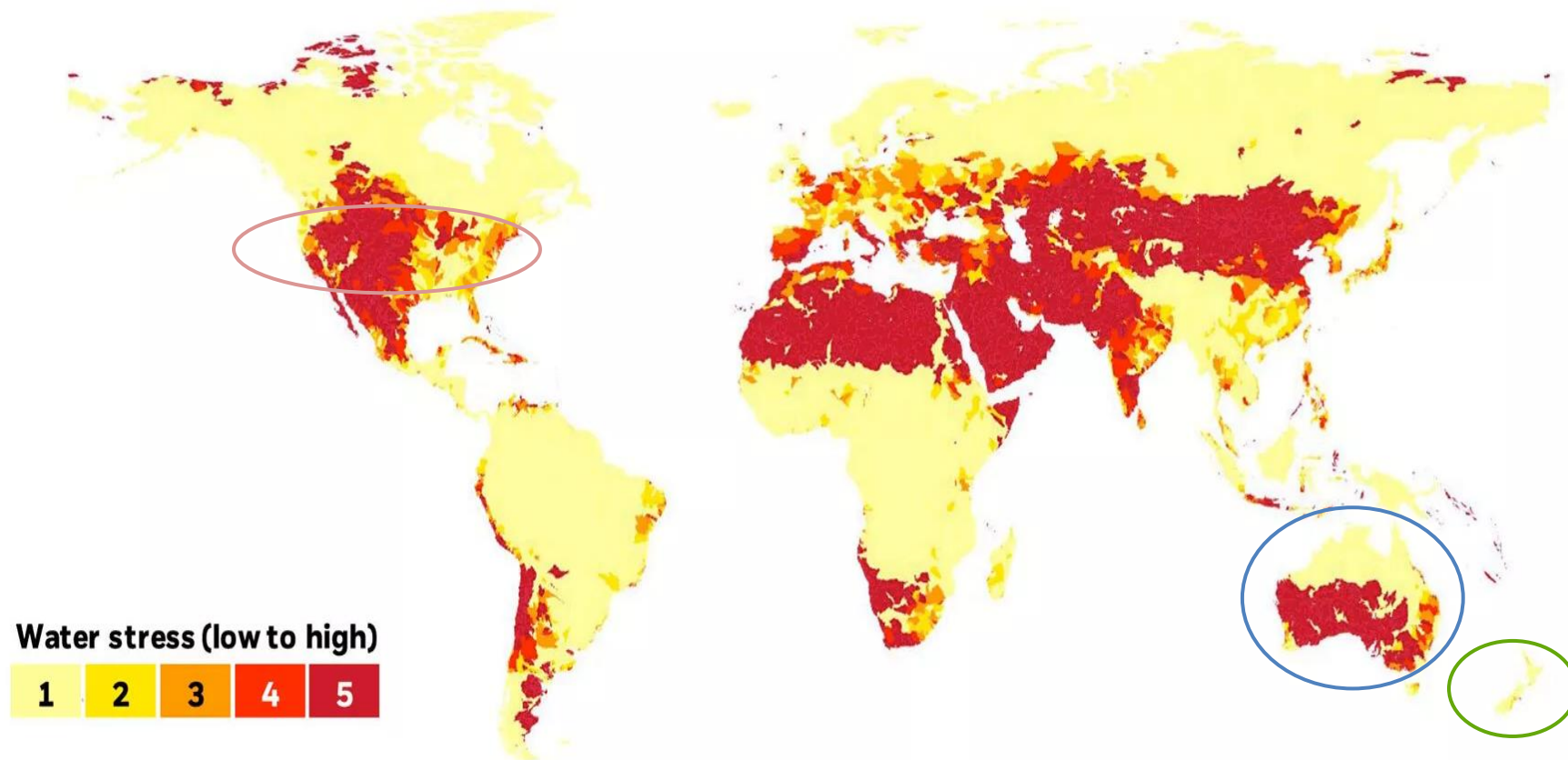
- ✓ NZは豊富な降雨量により、家畜の飲み水や牧草の生育に必要な水が潤沢
- ✓ NZは今後も水不足になる可能性が低いと考えられている

年間降水量国別ランキング

順位	国名	長期平均 年間降水量 (mm/年)
1	コロンビア	3,240
2	サントメ・プリンシペ	3,200
3	パプアニューギニア	3,142
<b>45</b>	<b>ニュージーランド</b>	<b>1,732</b>
48	日本	1,668
112	米国	715
141	オーストラリア	534
180	サウジアラビア	59
181	リビア	56
182	エジプト	18

出典：FAO（国連食糧農業機関）「AQUASTAT」

Water Stress リスク 2030年予測

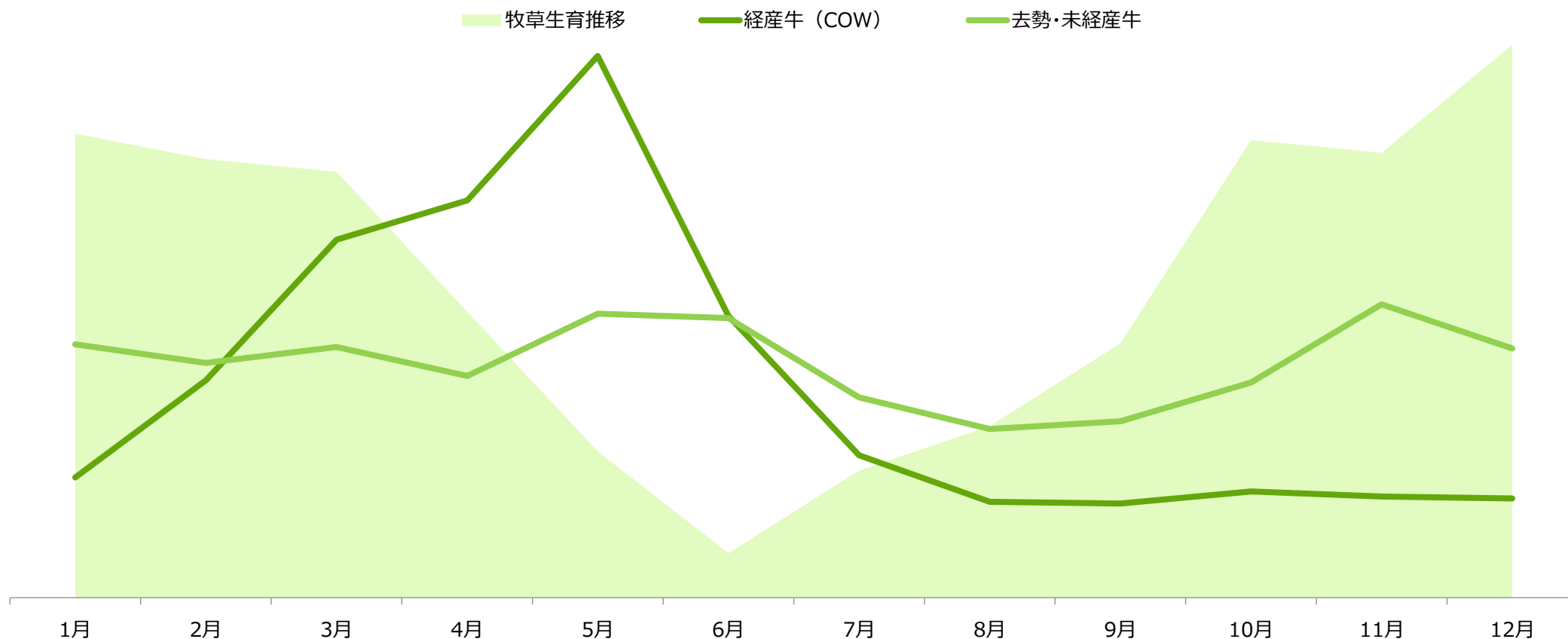


出典：WORLD RESOURCES INSTITUTE

# NZ食肉産業の特徴 – 牧草生育と牛処理頭数推移

- ✓ 牛は、牧草生育状況に合わせ、春先の7-9月に子牛が生まれる出産サイクルを構築
- ✓ 乳牛が主体の経産牛（COW）は、乾乳期となる6月を前に出荷が増加

### 牧草生育と牛処理頭数の関係性

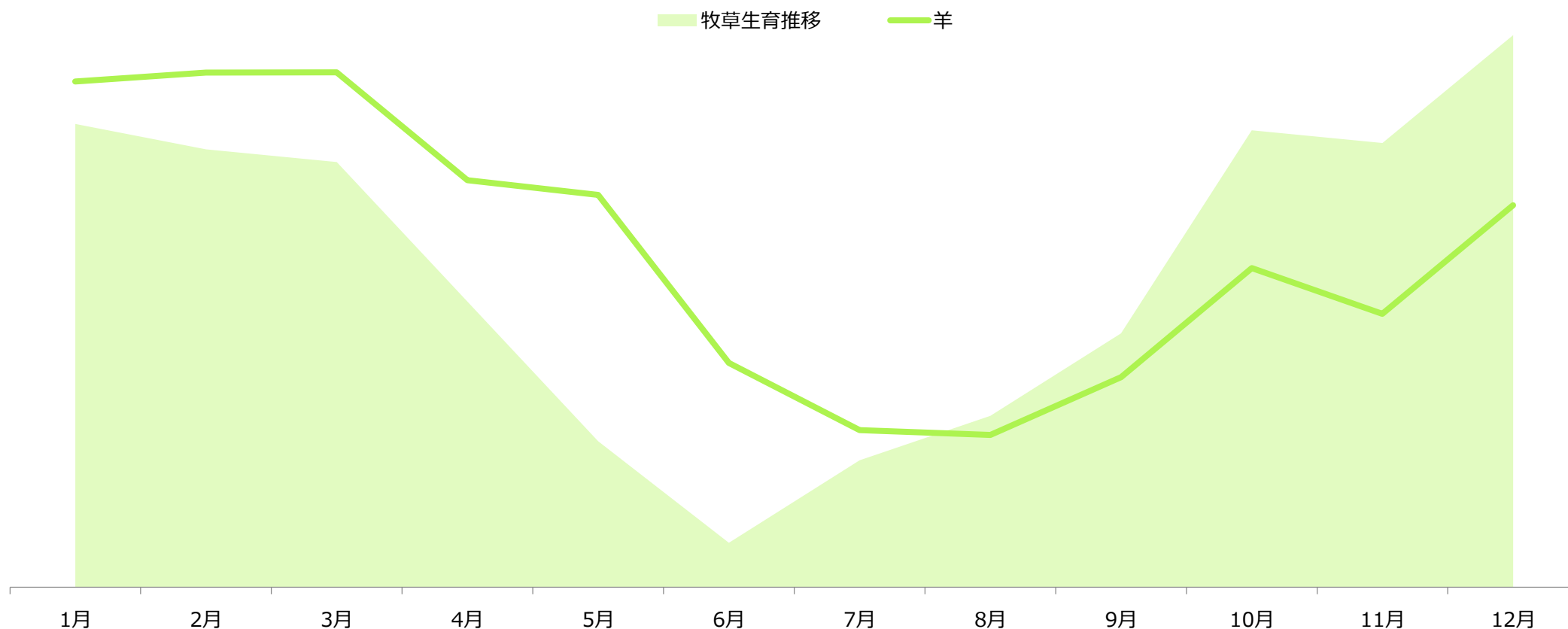


出典① : Beef+Lamb New Zealand (BLNZ)  
出典② : Dairy NZ

## NZ食肉産業の特徴 – 牧草生育と羊処理頭数推移

- ✓ 羊は、10月から翌年3月がスプリングラム（春子羊）のシーズン
- ✓ 主要産地かつ主要市場である欧州とは夏冬が逆のため、端境期需要を取り込める

牧草生育と羊処理頭数の関係性

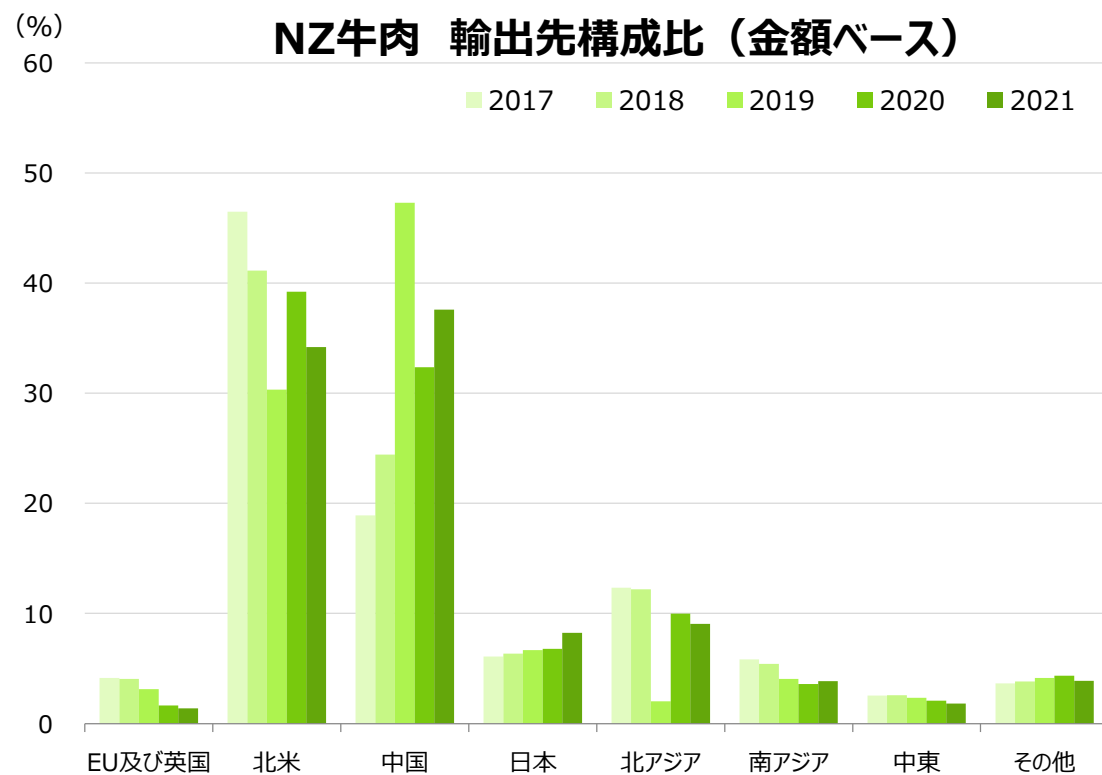


出典① : Beef+Lamb New Zealand (BLNZ)  
出典② : Dairy NZ

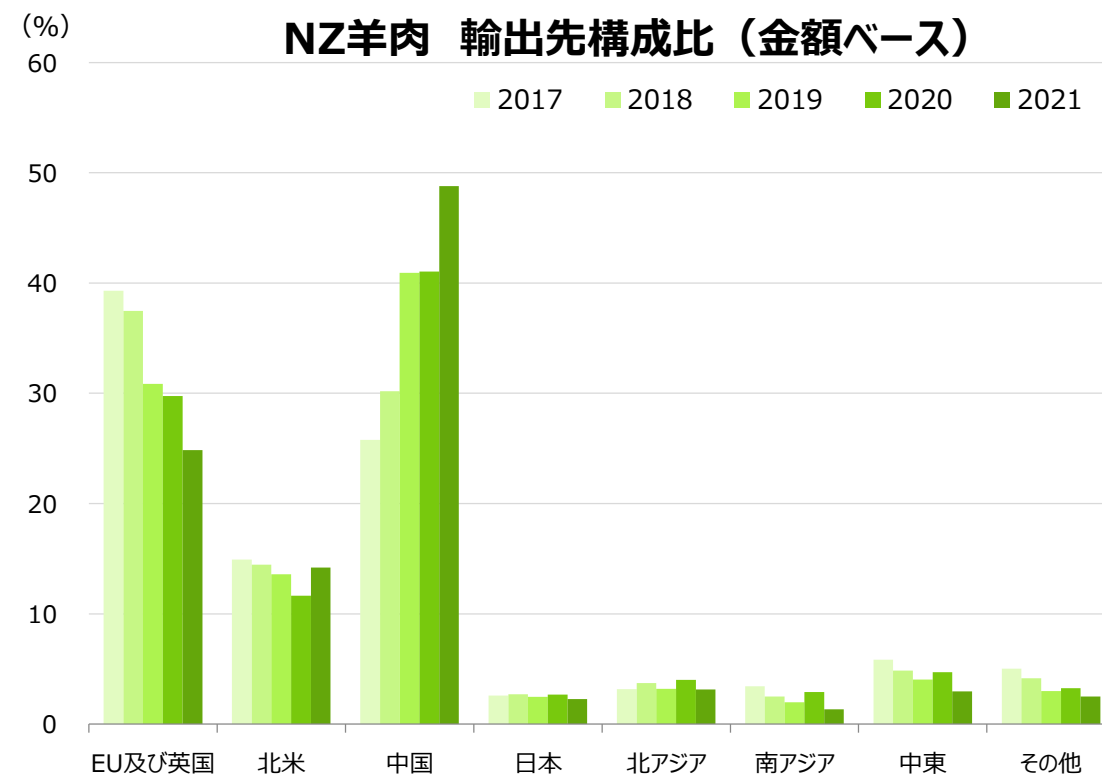


# NZ食肉産業の特徴 – 食肉輸出先

- ✓ 牛肉の輸出先は米国が主体  
経産牛から出る赤身率の高い冷凍牛肉で、ハンバーガーパティの原料用途
- ✓ 羊肉は英国や欧州が歴史的に販売割合が大きい
- ✓ 2016年の中国とのFTA発効以降、牛肉・羊肉ともに同国向け輸出が伸長



出典：Beef+Lamb New Zealand (BLNZ)



出典：Beef+Lamb New Zealand (BLNZ)

- ✓ 牛・羊ともに省力化と低コストの放牧が主体
- ✓ 年間を通して冷涼な気候と安定した降雨量により、飼料となる牧草は潤沢、飼育環境は良好
- ✓ 生体出荷にはシーズントレンドがある
- ✓ 生産される食肉は輸出向けが大半で、世界相場が収益に与える影響が大きい

アンズコフーズ事業概要  
アンズコフーズの特徴と取り組み



**ANZCO**  
FOODS

# アンズコフーズの特徴と取り組み - プロファイル

- ✓ 食肉生産・販売事業を軸に、加工食品やヘルスケアなどの事業を展開
- ✓ NZ唯一の大規模フィードロットを保有

 売上高

**16.4億**NZ\$ ※グループ内向け売上高を含む

 総資産

**7.7億**NZ\$

- ・食肉処理工場
- ・加工工場
- ・肉牛フィードロット
- ・生化学/血液製造会社
- ・合併事業
- ・海外事業所

7工場

3工場

1ヶ所

2企業

2事業

5拠点

 輸出規模

**5**位 (NZ全産業中)

**80**以上の国及び地域に出荷

 従業員数

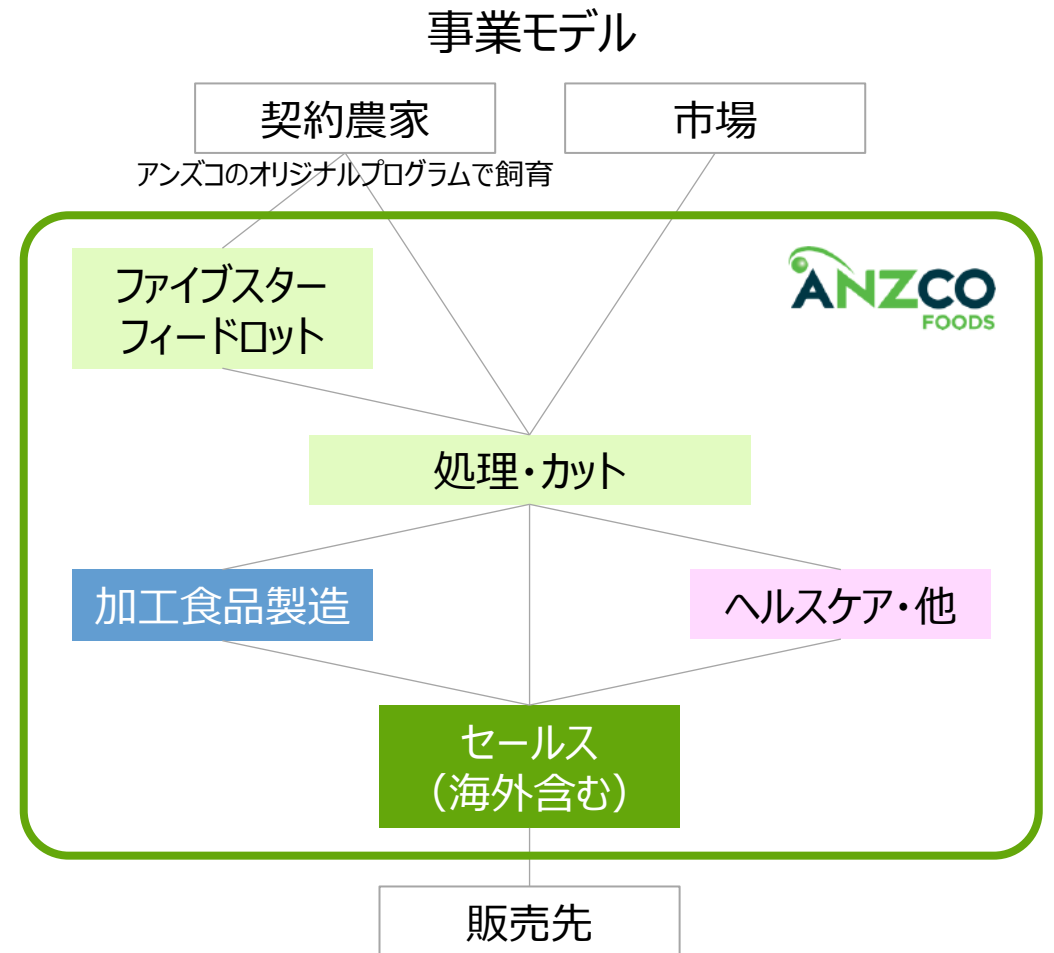
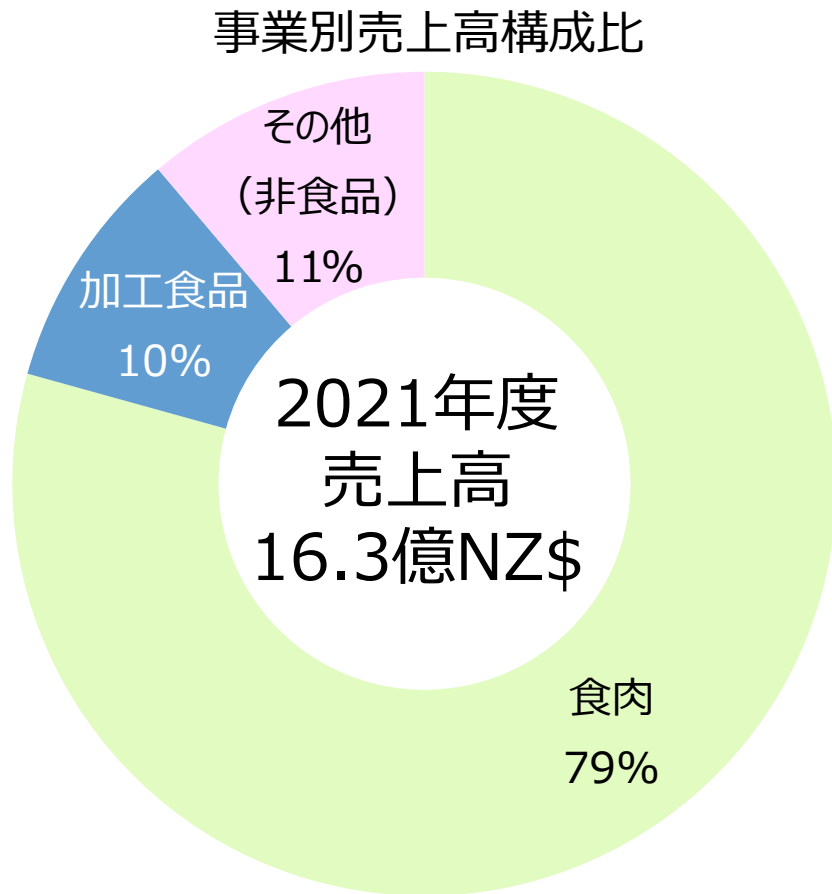
**3,000**人

# アンズコフーズの特徴と取り組み - 沿革

アンズコフーズ沿革	伊藤ハムの出資と目的
1984年 日本で牛肉と羊肉のマーケティングを行うため、 グラエム・ハリソン氏がAsian New Zealand Meat Companyを設立	
1989年 ファイブスタービーフ・フィードロット設立（1991年より稼働）	高品質な日本向けグレインフェッドビーフの確保を目的とし、ファイブスタービーフに出資 （出資比率：アンズコフーズ50%、伊藤ハム50%）
1993年 グリーンアイランド工場（パティ製造）を取得	
1994年 カンタベリー工場の株式80%を取得 カンタベリーで牛肉工場を建設	
1995年 リバーランズ（Riverlands）の商標権を取得	日本向けNZ産牛肉・羊肉の販売拡大を目的にアンズコフーズへ出資（48%）
2001年 カンタベリー工場の株式100%を取得	
2003年 ランギティケイ工場を建設、操業開始	
2004年 ワイタラ工場（加工食品製造）を取得	
2010年	（豪州パッカー事業のロックデールビーフを売却） 自社グレインフェッドビーフをNZに集約
2012年 Bovagen社を買収し、ヘルスケア事業に参入	
2015年	海外生産および海外市場での販売拡大を目指し、出資比率を拡大し子会社化 （65%）
2018年	海外事業を強化し、増加する世界の食肉需要を取り込むべく、100%子会社化 会長職の派遣によるガバナンス強化を図る
2022年 Moregate社の血液製剤事業を買収し、ヘルスケア事業を強化	

# アンズコフーズの特徴と取り組み - 事業ポートフォリオ

- ✓ 中核事業の食肉が売上の8割を占める
- ✓ 周辺領域の加工食品、ヘルスケア・他事業を強化することで収益の安定を図る



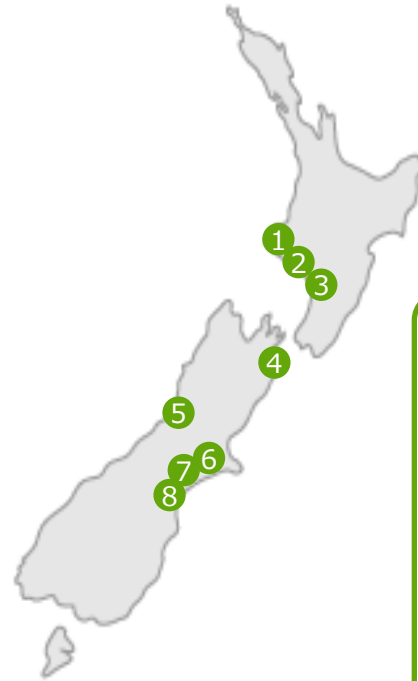
# アンズコフーズの特徴と取り組み - 食肉事業

- ✓ 年間処理頭数 肉牛：15万頭 乳牛：29万頭 羊：220万頭
- ✓ 食肉処理工場はNZ国内に7工場（北島3工場、南島4工場）
- ✓ NZ唯一の大規模肉牛フィードロットを有する（2万頭キャパ）

① エルサム工場	牛
② マナワツ工場	牛
③ ランギティキ工場	羊
④ マールボロ工場	牛
⑤ コキリ工場	牛
⑥ カンタベリー工場	牛・羊
⑦ ラカリア工場	羊・仔牛
⑧ ファイブスターフィードロット	

※工場は全てハラール対応

## NZ国内 食肉事業拠点



①エルサム工場



⑥カンタベリー工場



⑧ ファイブスターフィードロット



- ✓ 穀物肥育牛の生産、輸出先は日本を中心に中国・EUなど
- ✓ 成長促進ホルモン剤不使用、遺伝子組み換え飼料不使用

# アンズコフーズの特徴と取り組み - 加工食品事業

- ✓ ファーストフード向けビーフパティの製造販売
- ✓ 米国向けビーフジャーキーの製造販売
- ✓ NZ国内、豪州向け半加熱ビーフパティの製造販売



グリーンアイランド工場（製品：パティ）



※製品は全てハラール対応

ワイタラ工場（製品：パティ、ジャーキー、他）



- ✓ 世界的ハンバーガーチェーンのオセアニア域内にパティを供給
- ✓ 米国大手メーカーにビーフジャーキーを供給



# アンズコフーズの特徴と取り組み - ヘルスケア事業

- ✓ 牛の血液、心膜、アキレス腱など副産物を有効活用した垂直統合型バリューチェーンを構築
- ✓ 牛血液製剤では高い世界シェア率（世界シェア2位）を誇る
- ✓ 市況耐性の高い事業ポートフォリオの実現を目指す

## 血液製剤事業



### 牛血液製剤

用途	ワクチン製造、研究用の細胞培地、生化学分野、臨床診断、他
市場成長	今後、 <b>年率成長率10%以上</b> の市場規模拡大が見込まれる
オセアニア産	牛疾病リスクが低いとの評価から、医薬品メーカーの高い製品評価、高いシェアを維持
シェア率 (当社調べ)	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>世界における オセアニアのシェア</p> <p>31%</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>オセアニアにおける アンズコフーズのシェア</p> <p>43%</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p><b>世界シェア</b> <b>2位</b> <b>(13%)</b></p> </div> </div>

## その他ヘルスケア事業



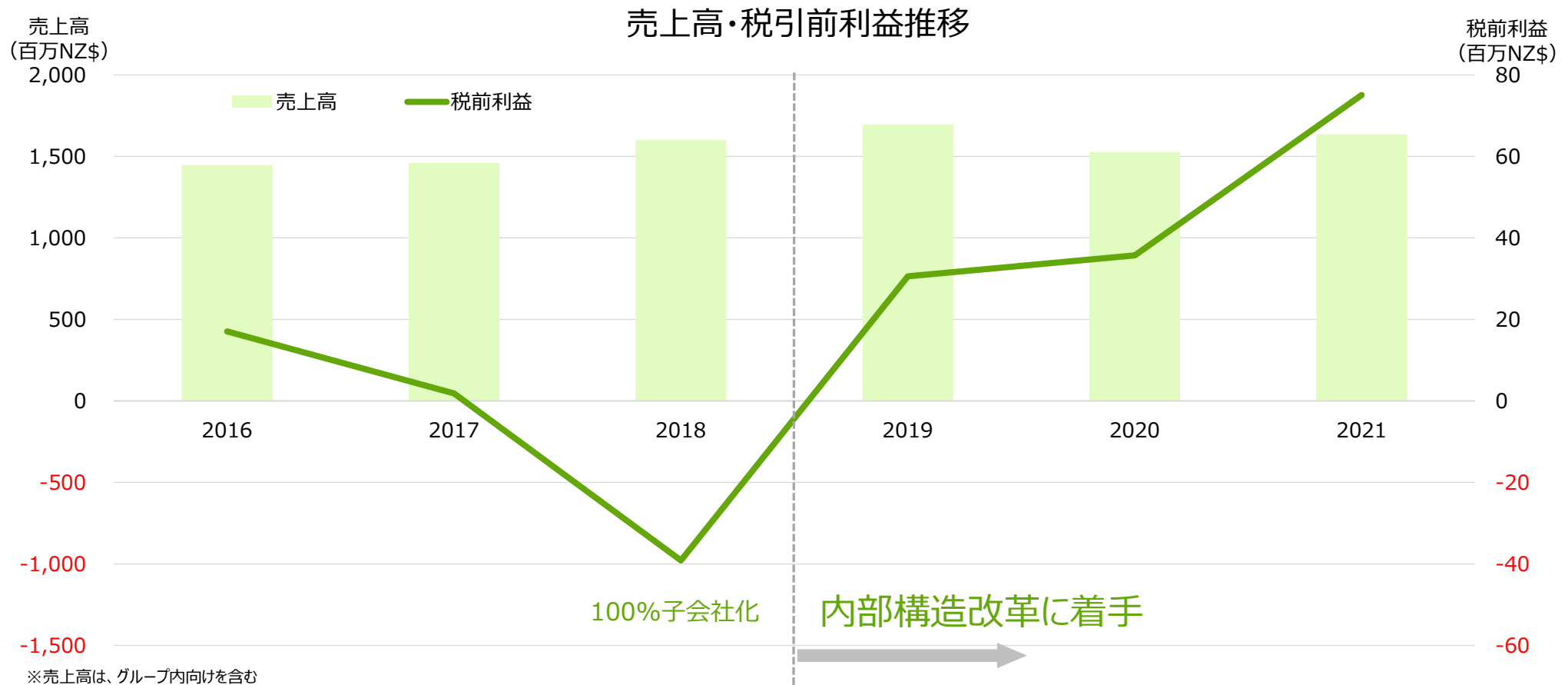
牛心膜を利用した人工心臓弁  
(ステントグラフト)



牛アキレス腱や牛骨を利用した  
各製品も各種手術、治療に  
活用されている

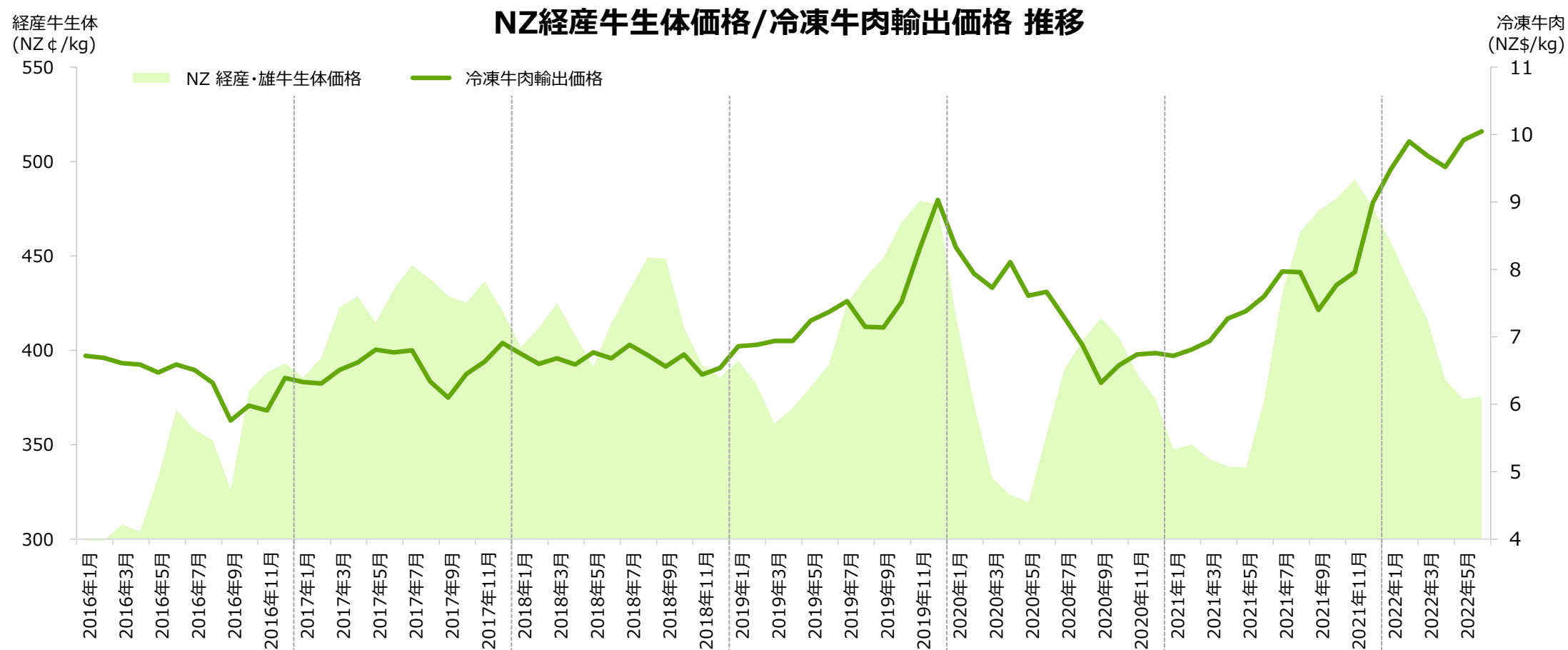
# アンズコフーズの特徴と取り組み - 業績推移

- ✓ 2018年度は世界的な食肉相場が下落した一方、NZ国内での調達価格上昇により赤字
- ✓ 2019年度以降は、世界的な食肉需要増加と内部構造改革により、V字回復
- ✓ 2021年度は過去最高益を達成



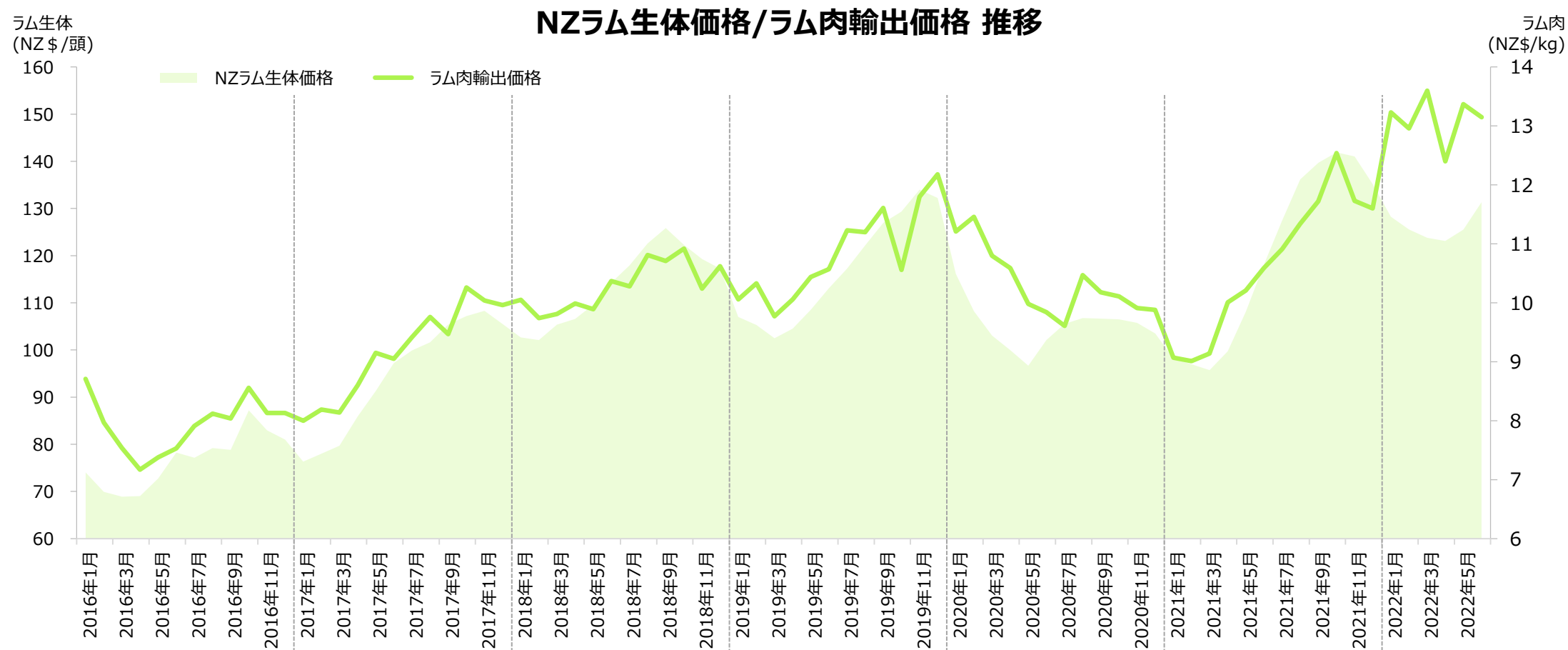
# アンズコフーズの特徴と取り組み - ボラティリティ (牛)

- ✓ コモディティ相場の影響を受けやすく、ボラティリティが比較的大きい業態
- ✓ 2016年-18年に掛けて輸出価格は低迷、一方NZ国内調達価格は高値で推移



# アンズコフーズの特徴と取り組み - ボラティリティ (羊)

✓ 2018-19年に掛けて中国向け需要が急伸、ラム生体価格も高値で推移



## アンズコフーズの特徴と取り組み - 内部改善

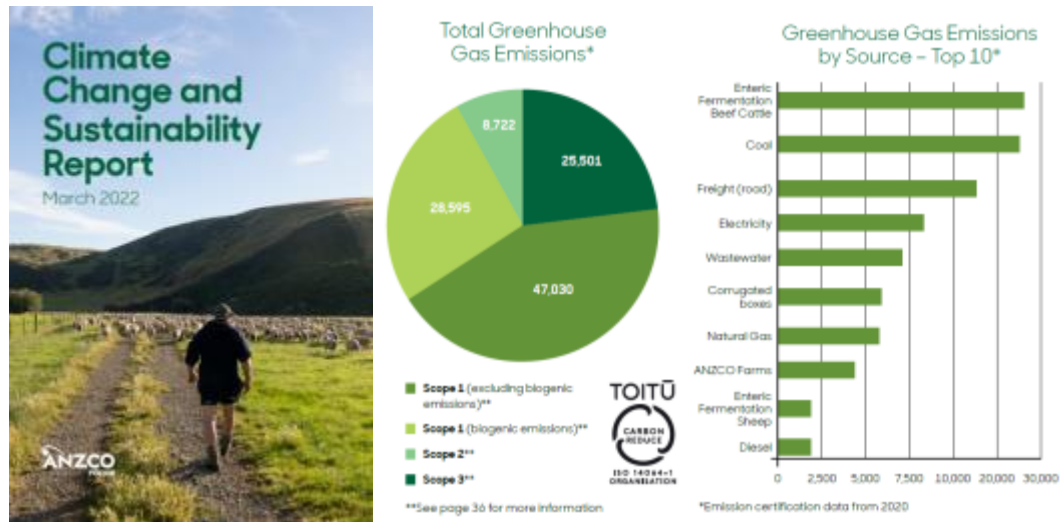
- ✓ 構造改革の実施による経営体制の改善
- ✓ ボラティリティに耐える事業体質へ

2018年以前	2019年以降
販売と連動しない生産シェア拡大路線	Sales & Operations Planning (S&OP) システムの導入 販売と連動した生産体制に
付加価値部門の設立と総花的な投資	ノンコア事業からの撤退（加工肉、ペットリーツ、他） 付加価値事業は、加工食品とヘルスケアに集中
組織の肥大化とサイロ化	機能別組織への変更と人員削減 経営執行体制の刷新

# アンズコフーズの特徴と取り組み – サステナビリティの取り組み

- ✓ 環境先進国のNZにおいて、気候変動及びサステナビリティの積極的な取り組みを実施
- ✓ 2021年にToitū Carbon Reduce認証\*を取得  
\*国際的に認められているISO 14064-1およびIPCCの第五次評価報告書（2014年）の温室効果ガスプロトコルに沿った独立認証。
- ✓ 各拠点のCO<sup>2</sup>排出量を2030年までに2020年比25%削減する計画

2021年より取り組み内容を報告書として開示



Climate Change and Sustainability Report 2022  
<https://anzcofoods.com/assets/Documents/ANZCO-Foods-Climate-Change-and-Sustainability-Report-2022.pdf>



高温ヒートポンプを導入し、石炭ボイラーの使用を減少  
 この設備投資によりCO<sup>2</sup>排出を年間3,000t~7,000t削減見込



フィードロットでの牛メタン抑制を研究機関と共同研究



使用しなくなった包装資材の農場フェンス原料への再利用

etc.

- ⋮
- ⋮
- ⋮

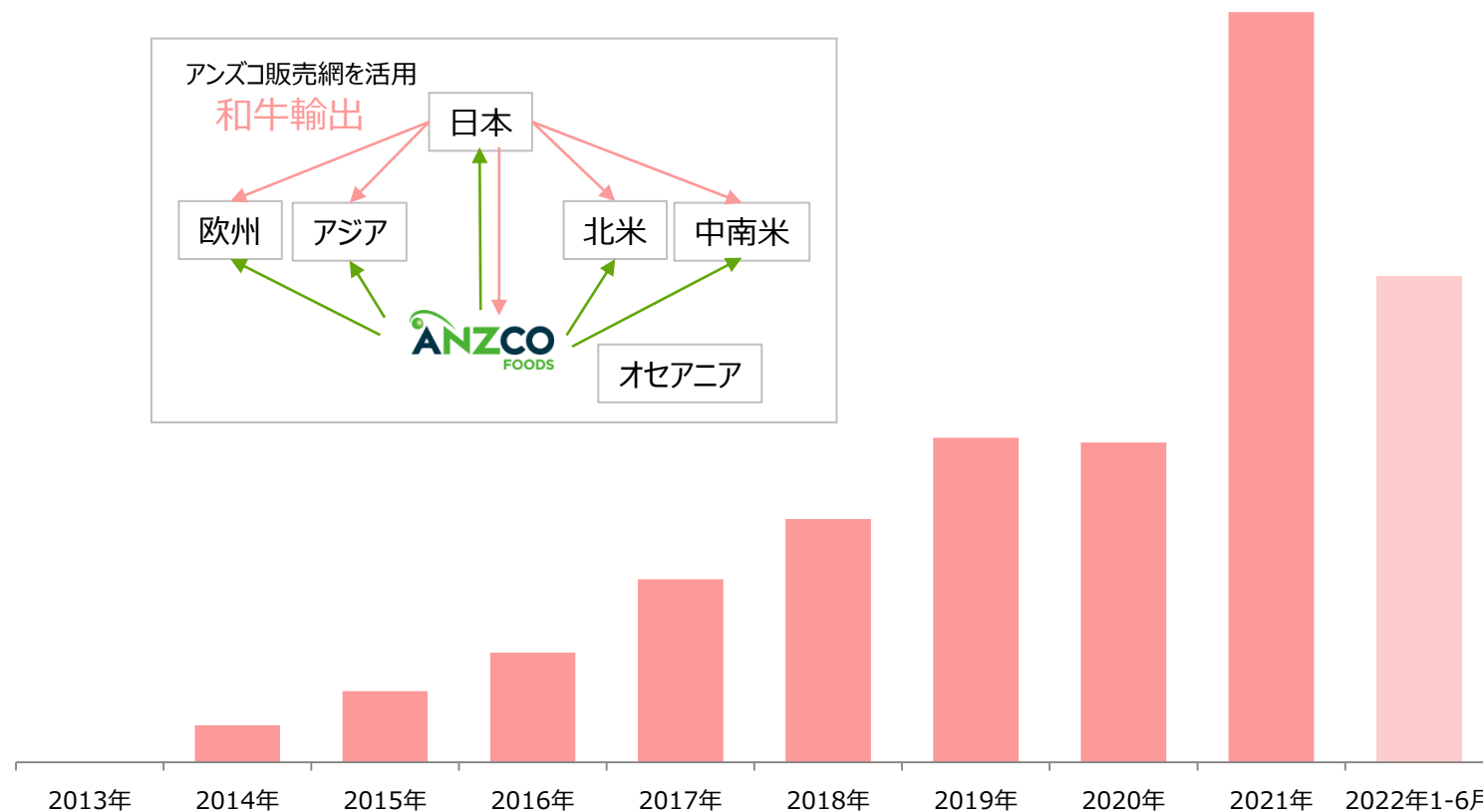
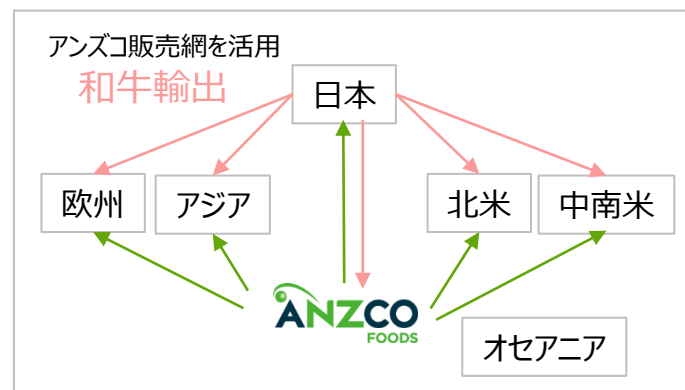
地域との河川の水質改善への取り組み  
 生態系保護を目的とした植樹活動  
 工場で使用されたゴム長靴のリサイクル

# アンズコフーズの特徴と取り組み - グループシナジーの創出

- ✓ アンズコ商品の日本国内販売、ブランドミートの確立
- ✓ アンズコ海外事業所を活用した和牛の輸出販売



伊藤ハム米久HD  
EU向け和牛輸出量推移（アンズコEU取扱い）





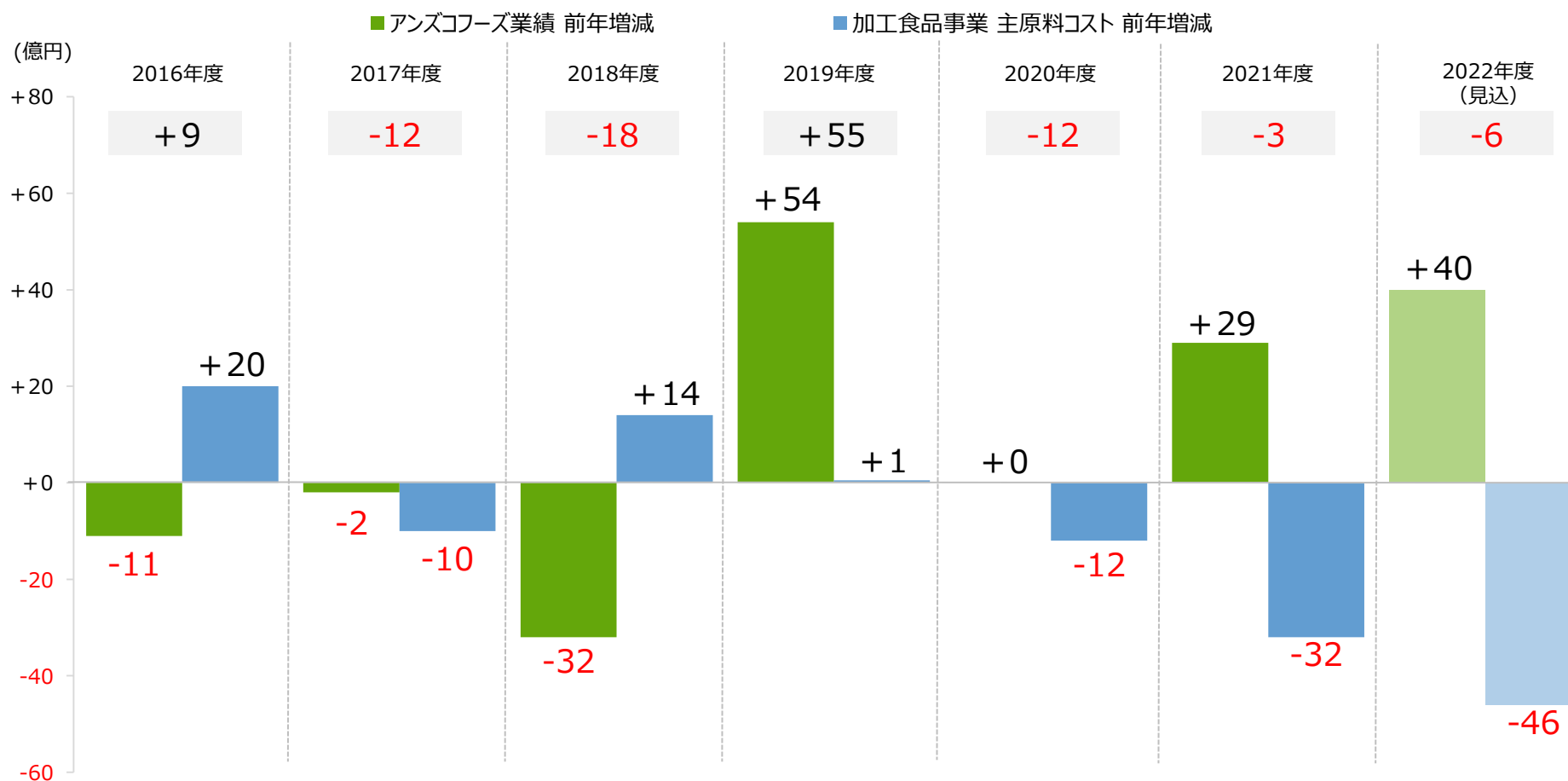
参考資料



## 参考資料 - 伊藤ハム米久 事業ポートフォリオ

- ✓ アンズコフーズ業績と加工食品事業の主原料コストは、共に世界的な食肉相場が影響
- ✓ 両者は逆相関関係にあり、伊藤ハム米久HDの収益の安定性に寄与

### アンズコフーズ業績と加工食品事業主原料コストの関係性



## 参考資料 - NZ食肉産業のシェア構造

会社	資本構成	売上高 (億NZ\$)	牛肉 (輸出シェア)	羊肉 (輸出シェア)	工場数
A社	中国：50% 農協：50%	27.5	30%	19%	11
B社	農協：100%	18.5	11%	27%	7
	日本：100%	16.4	16%	10%	7
C社	プライベート： 100%	非公開	19%	16%	7
その他	-	-	24%	28%	-

## 参考資料 - NZ・豪州 畜産比較

	ニュージーランド	オーストラリア
飼育頭数	肉牛 388万頭 乳牛 628万頭 羊 2,600万頭	肉牛 2,611万頭 乳牛 138万頭 羊 7,060万頭
処理頭数(※)	牛 280万頭 羊 2,200万頭	牛 630万頭 羊 2,690万頭
輸出量	牛 502千MT 羊 394千MT	牛 888千MT 羊 408千MT
畜種	肉牛 アンガス、ヘレフォード 乳牛 ホルスタイン、ジャージー 羊 ロムニー、サフォーク	肉牛 英国系肉用種と熱帯系畜種の交雑 乳牛 ホルスタイン、ジャージー 羊 ドーセット、ボーダーレスター、サフォーク
飼養環境	年間を通して豊かな降雨量 冷涼で安定した気候	降雨量は限定的 飼養エリアである沿岸部は気温が高め
飼養方法	グラスフェッド	牛 グレインフェッド、グラスフェッド 羊 グラスフェッド
牧草	農家自ら育てているケースが多く、高栄養・高品質 (ライグラス、クローバー、他)	干ばつでも育ちやすい品種 (トロピカルライグラス、クローバー、他)
処理方法	牛 ホットボーニング 羊 コールドボーニング	コールドボーニング
安全性	成長促進ホルモン剤不使用 遺伝子組み換え飼料不使用 (Non-GMO)	成長促進ホルモン剤使用 遺伝子組み換え飼料使用 (ヴィクトリア州を除く)

※仔牛は除く

---

お問合せ先

〒153-8587 東京都目黒区三田1-6-21

伊藤ハム米久ホールディングス株式会社 アルト伊藤ビル

広報 I R 室

電話：03-5723-6889

会社HPからもお問合せいただけます。

<https://www.itoham-yonekyu-holdings.com>

本資料において掲載されている、当社の現在の計画、見通し、戦略等のうち、歴史的事実でないものは将来の業績に関する見通しであり、これらは現在入手可能な情報から得られた当社の判断に基づいております。

従いまして、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものであることをご承知おきください。

なお、本資料の情報は投資家の皆様に当社への理解を深めていただくことを目的とするものであり、投資勧誘を行うものではありません。

また、掲載された内容については細心の注意を払っておりますが、掲載された情報に誤りがあった場合や、第三者によるデータの改ざん等があった場合、さらにデータのダウンロード等によって障害が生じた場合に関しましては、当社は一切責任を負うものではありませんのでご了承ください。